

# スーザン・レイ・フォスターの 〈Reflective Mode〉概念研究

酒向治子

〈舞踊を言葉 (verbal) でどうとらえるか〉、舞踊と言葉の関係というテーマについては、これまで否定的な面が強調されることが多かった。しかし、近年新しい舞踊分析アプローチを模索する試みが多くなされるようになり、中でも「テキスト」をめぐる文学評論や記号論的視点を舞踊に適用させようと試みる Susan Leigh Foster は最も注目を浴びている理論家の一人である。本研究では、彼女の著書『Reading Dancing』(1986) において提示された〈Reflective Mode〉という概念を手掛かりに、フォスターの思想的特徴を探り、舞踊への新しい記号論的アプローチを考察する。<sup>(1)</sup>

(研究方法) まず、『Reading Dancing』に対する評論文などを参考に、フォスターの理論的立場を明確にする。次に、『Reading Dancing』における〈Reflective Mode〉概念の位置づけや定義を探る。また、フォスターは〈Reflective Mode〉の例をカニングハムダンスに見出しているが、カニングハムに関する文献 (特にカニングハム自身やダンサーが語ったものなど内部資料) と、フォスターの主張を比較参照することで、〈Reflective Mode〉に表れるフォスターの理論的特色をより明らかにする。

## (考察) 1. フォスターの理論的立場

フォスターに関する様々な意見を総括すると、主に二つの点で評価されている。まず、舞踊を直観的・無意識的な感情の表現手段と見なしそれゆえ「言葉」(Verbal Articulation) という手段では捉えられないとする従来の見方を拒否し、舞踊の研究対象としての可能性を主張した点である。<sup>(2)</sup> また、フォスター自ら踊る者としてダンサーの身体と意識の在り方に注意をはらい、Barthes や Foucault の身体論を取り入れながらダンサーの視点を常に理論に反映させている。実践者の経験を理論に生かしている点で注目されている。

しかしまたフォスターの理論は様々な批判にもさらされている。よく指摘されるのは、用語の定義の誤りなど、他の研究分野からの概念を舞踊に適用する、その概念に関する細かい注意を欠き、しばし論点が混乱するという点である。<sup>(3)</sup>

## 2. 『Reading Dancing』における〈Reflective Mode〉

フォスターは西洋の劇場舞踊を分析するためのコード (codes) の一つに「Mode of Representation」を挙げている。これは Giambattista Vico, Kenneth Burke, Hayden White, Michael Foucault などによ

る修辞概念を舞踊の場に適用したもので、以下の四つの要素から構成される。この内の一つが〈Reflective Mode〉である。

① 隠喩 (ある事を似ているもので置き換える) → 〈Resemblance Mode〉 踊りにおいてある一つの性質を表現する。 [現代のダンス例] Deborah Hay
② 換喩 (事物を直接示す代わりに、その属性・空間的・時間的に近い関係にあるもので置き換える) → 〈Imitative Mode〉 表現されるものとダンスの振りの、空間的・時間的相似関係を表す。 [現代のダンス例] George Balanchine
③ 捉喩 (一部で全体を、全体を一部で表す) → 〈Replicative Mode〉 表現するものの二つの性質を取り上げ、その関係を示す。 [現代のダンス例] Martha Graham
④ 反語 (表面的意味の反対を暗示する) → 〈Reflective Mode〉 身体の動きのみを表現する。そこからどのような意味を導くかは観客の自由である。 [現代のダンス例] Merce Cunningham

## 3. 反語 = 〈Reflective Mode〉の考察

バーク、ヴィーコ、ホワイトの理論書などを参照すると、フォスターは反語という修辞がもつ二つの性質を適用して〈Reflective Mode〉を形成した事がわかる。<sup>(4)(5)(6)</sup> それらは①反語の〈伝達媒体である言葉そのものに焦点をあてる〉という性質を、舞踊において媒体である身体 (運動) への注目に対応させ、②〈メッセージの二重性〉という反語の性質を、舞踊の意味の曖昧さに対応させたという点である。

しかし、この〈Reflective Mode〉の例であるカニングハムに関する他の文献を検討すると、果たして〈Reflective Mode〉が妥当なものかどうか疑問が生じる。もとの反語においては、曖昧なものであっても示唆されるべき内容が受け手に伝えられるのに対し、〈Reflective Mode〉にはそのようなニュアンスはない。例とするカニングハムは意味解釈は全く受け手にゆだねると主張しているが、これが反語的といえるのかどうか。<sup>(7)</sup> 〈Reflective Mode〉、そして修辞機能を舞踊分析に適用した「Mode of Representation」全体について、詳細な議論が必要だと思われる。

[注] (1) Foster, Susan L. 1986 *Reading Dancing* Univ. of California Press. (2) Jackson, Naomi. 1994 "Dance Analysis" *Dance Research* V. XI No.1 pp 3-11. (3) Siegel, Marcia B. 1988 "Truth About Apples & Oranges" *Drama Review*, V.3 No.4 winterp24-31 (4) Burke, Kenneth 1945 *A Grammar of Motives* Prince-Hall (5) Vico, Giambattista. 1979 [新しい学] 中央公論社 (6) White, Hayden 1978 *Tropics of Discourse* Johns Hopkins Uni. Press. (7) ジャクリューヌ・レッシュャーヴ 1987 『カニングハム・動きリズム・空間』新書館